
「現代文明の基層としての古代西アジア文明
—文明の衝突論を克服するために—」

領域番号：1401

平成24年度～平成28年度
科学研究費助成事業（科学研究費補助金）
（新学術領域研究（研究領域提案型））
研究成果報告書

平成30年6月

領域代表者 常木 晃

筑波大学・人文社会系・教授

はしがき

本成果報告書は、平成 24 年度～平成 28 年度新学術領域研究（研究領域提案型）「現代文明の基層としての古代西アジア文明—文明の衝突論を克服するために—」および平成 29 年度新学術領域研究（成果取りまとめ）「西アジア文明学の構築」に関わる成果報告書です。

現代社会において、西アジア地域の政治、経済、文化に関する諸問題は、常に世界の不安定要素とされ、世界政治の中でまるで鬼子のように扱われてきました。その背景には、西欧社会によるイスラームに対する偏見や、文明の衝突といった言説の中で、西アジアの諸社会が西洋社会への対立軸として捉えられ、非西洋的な象徴としてのスケープゴートとされてきたのです。しかし、古代西アジア文明という視座から見れば、西欧文明とイスラーム文明は同一の文明から出発した直近の兄弟に過ぎず、世界のその他の文明も従兄弟や又従兄弟に過ぎません。したがって、古代西アジア文明の研究は、現代イスラーム社会を理解することのみならず、現代文明世界の根幹部分を正しく理解し、相互理解を深化させていくために、極めて重要かつ必須のアイテムに他なりません。西アジア文明の研究は、単なる地域研究の枠組みを超え、現代世界の諸文明の理解において、わが国における文明学の水準を向上させるとともに、世界に向けた発信力の強化に大きく貢献するものであるということができます。

本領域ではこのような理解の下、古代西アジア地域の研究に携わる多様な人材を連携させ、大学院生などの若手研究者を巻き込みながら文理さまざまな分野の計画研究を同時進行させ、それに公募研究を加えて、「西アジア文明学」とでもいべき新たな研究領域を構築することを目指しました。

研究組織

領域代表者 常木 晃（筑波大学・人文社会系・教授）

総括班 研究課題「西アジア文明学の構築」

研究代表者 常木 晃 筑波大学，人文社会系，教授（70192648）

研究分担者 山田 重郎 筑波大学，人文社会系，教授（30323223）

久田 健一郎 筑波大学，生命環境系，教授（50156585）

丹野 研一 山口大学，農学部，助教（10419864）

本郷 一美 総合研究大学院大学，先端科学研究科，准教授（20303919）

谷口 陽子 筑波大学，人文社会系，准教授（40392550）

柴田 大輔 筑波大学，人文社会系，准教授（40553293）

黒澤 正紀 筑波大学，生命環境系，准教授（50272141）

八木 勇治 筑波大学，生命環境系，准教授（50370713）

三宅 裕 筑波大学，人文社会系，教授（60261749）

池田 潤 筑波大学，人文社会系，教授（60288850）

安間 了 筑波大学，生命環境系，講師（70311595）

丸岡 照幸 筑波大学，生命環境系，准教授（80400646）

A01 計画研究 1 西アジアにおける現生人類の拡散ルート—新仮説の検証—

研究代表者 常木 晃 筑波大学，人文社会系，教授（70192648）

研究分担者 西山 伸一 中部大学, 人文学部, 准教授 (50392551)
大沼 克彦 国士舘大学, イラク古代文化研究所, 名誉教授 (70152204)
研究協力者 DOUGHERTY Sean ミルウォーキー技術大学, 講師
MIRESKANDARI Seyed イラン文化遺産庁, 前考古局長

A01 計画研究 2 古代の主食糧としてのコムギ栽培進化プロセスの解明

研究代表者 丹野 研一 山口大学, 創成科学研究科, 助教 (10419864)
研究分担者 山根 京子 岐阜大学, 応用生物科学部, 助教 (00405359)
河原 太八 京都大学, (連合)農学研究科(研究院), 准教授 (20115827)

A01 計画研究 3 西アジア先史時代における工芸技術の研究

研究代表者 三宅 裕 筑波大学, 人文社会系, 教授 (60261749)
研究分担者 松本 建速 東海大学, 文学部, 教授 (20408058)
小高 敬寛 東京大学, 総合研究博物館, 特任助教 (70350379)
前田 修 筑波大学, 人文社会系, 助教 (20647060)
研究協力者 田尾 誠敏 東海大学, 文学部, 非常勤講師
ル=ミエール マリー オリエント学研究所, 教授
ヤルチュン ウンサル ドイツ鉱山博物館, 教授

A01 計画研究 4 西アジア先史時代の石材供給に関する地質学

研究代表者 久田 健一郎 筑波大学, 生命環境系, 教授 (50156585)
研究分担者 鎌田 祥仁 筑波大学, 生命環境系, 准教授 (30294622)
荒井 章司 金沢大学, 自然システム学系, 教授 (20107684)
研究協力者 Poshtkoohi Monireh イラン地質調査所, 上席研究員
Parisa Gholami Zadeh イラン地質調査所, 研究員
Aghanabati Seyed A. イラン地質調査所, 名誉研究員

A01 計画研究 5 西アジア都市文明の資源基盤と環境

研究代表者 本郷 一美 総合研究大学院大学, 先導科学研究科, 准教授 (20303919)
研究分担者 姉崎 智子 群馬県立自然史博物館, 研究員(移行) (50379012)
藤井 純夫 金沢大学, 歴史言語文化学系, 教授 (90238527)

A02 計画研究 6 古代西アジアの文字文化と社会—前2千年紀におけるユーフラテス中流域とハブル流域

研究代表者 山田 重郎 筑波大学, 人文社会系, 教授 (30323223)
連携研究者 中田 一郎 (財)古代オリエント博物館, 館長 (50119541)
渡辺 千香子 大阪学院大学, 国際学部, 准教授 (40290233)
研究協力者 MAUL Stefan M. ハイデルベルク大学, 教授
ZIEGLER Nele フランス CNRS, 上級研究員

A02 計画研究7 周辺アッカド語文書に見る古代西アジアの言語・歴史・宗教に関する総合的研究

研究代表者 池田 潤 筑波大学, 人文社会系, 教授 (60288850)
連携研究者 山田 雅道 筑波大学, 人文社会系, 非常勤研究員 (90589631)
研究協力者 Cohen Yoram Tel Aviv University, Faculty of Humanities, Professor
Fleming Daniel E. New York University, Faculty of Arts and Science, Professor
春田 晴朗 東海大学, 文学部, 教授
湯沢 質幸 筑波大学, 名誉教授

A02 計画研究8 バビロニア・アッシリアの「政治」と「宗教」—領土統治における神学構築と祭儀政策—

研究代表者 柴田 大輔 筑波大学, 人文社会系, 准教授 (40553293)
研究分担者 河合 望 早稲田大学, 高等研究所, 准教授 (00460056)
中町 信孝 甲南大学, 文学部, 教授 (70465384)
津本 英利 (財)古代オリエント博物館, 研究部, 研究員 (40553045)
長谷川 修一 立教大学, 文学部, 准教授 (70624609)
連携研究者 青木 健 慶應義塾大学, 言語文化研究所, 研究員 (50745362)
有松 唯 東北大学, 新領域創成研究部, 助教 (60732112)
上野 雅由樹 大阪市立大学, 大学院文学研究科, 准教授 (10709538)
久米 正吾 東京藝術大学, 社会連携センター, 特任講師 (30550777)
嶋田 英晴 東京大学, 大学院人文社会系研究科, 研究員 (90732868)
下釜 和也 古代オリエント博物館, 研究部, 研究員 (70580116)
鈴木 恵美 早稲田大学, 地域・地域間研究機構, 主任研究員[研究院准教授] (00535437)
高井 啓介 東京大学, 大学院人文社会系研究科, 研究員 (00573453)
伊達 聖伸 上智大学, 外国語学部, 准教授 (90550004)
辻 明日香 川村学園女子大学, 文学部, 准教授 (60549509)
研究協力者 亀谷 学 弘前大学, 人文社会科学部, 講師 (00586159)
渡井 葉子 日本学術振興会, PD 特別研究員 (40752382)

A03 計画研究9 多元素同位体比分析による古代西アジアにおける古環境復元

研究代表者 丸岡 照幸 筑波大学, 生命環境系, 准教授 (80400646)
研究分担者 池端 慶 筑波大学, 生命環境系, 助教 (70622017)
連携研究者 柴田 智郎 京都大学, 大学院・理学研究科, 准教授 (80446369)
上松 佐知子 筑波大学, 生命環境系, 准教授 (50466661)

A04 計画研究10 堆積物に記録される西アジアにおける第四紀環境変動の解読

研究代表者 安間 了 筑波大学, 生命環境系, 講師 (70311595)
研究分担者 高橋 学 国立研究開発法人産業技術総合研究所, 活断層・火山研究部門, 上級主任研究員 (20357370)
八木 勇治 筑波大学, 生命環境系, 准教授 (50370713)
昆 慶明 国立研究開発法人産業技術総合研究所, 地圏資源環境研究部門, 研究

員 (80709634)

横尾 頼子 同志社大学, 理工学部, 助教 (00334045)

申 基チヨル 総合地球環境学研究所, 研究高度化支援センター, 助教 (50569283)

堀川 恵司 富山大学, 理工学研究部, 准教授 (40467858)

佐野 貴司 独立行政法人国立科学博物館, 地学研究部, 研究主幹 (40329579)

研究協力者 渡辺 千香子

辻 彰洋

折橋 裕二

安富 友樹人

佐藤 稔

潮見 和幸

浅井 公輔

阪本 千尋

DILEK Yildrim

ALTAWHEEL Mark

JOTHERI Jaafar

MEHRABANI Shiva

AZIZI Hussein

POSHTKOOHI Monireh

RASHEED Kamal

HAMA Hashim

MOHAMMAD Yusif

KADIOGLU Yusuf

SARIFAKIOGLU Ender

BAHROUDI Abbas

KOYI Hemin

GULLU Bahattin

ORHAN Ahmet

A03 計画研究 11 西アジアの地震活動

研究代表者 八木 勇治 筑波大学, 生命環境系, 准教授 (50370713)

研究分担者 大角 恒雄 独立行政法人防災科学技術研究所, 社会防災システム研究領域, 研究員 (50463542)

A03 計画研究 12 西アジア古代遺跡の石器・土器の組成・微細組織データベース

研究代表者 黒澤 正紀 筑波大学, 生命環境系, 准教授 (50272141)

研究協力者 笹 公和 筑波大学, 数理物質系, 准教授 (20312796)

A04 計画研究 13 西アジア文化遺産の材質と保存状態に関する自然科学的な研究

研究代表者 谷口 陽子 筑波大学, 人文社会系, 准教授 (40392550)

研究分担者 小泉 圭吾 大阪大学, 工学研究科, 助教 (10362667)
 島津 美子 国立歴史民俗博物館, 研究部情報資料研究系, 助教 (10523756)
 沼子 千弥 千葉大学, 大学院理学研究科, 准教授 (80284280)
 高嶋 美穂 独立行政法人国立美術館国立西洋美術館, 学芸課, 研究員 (80443159)
 伊庭 千恵美 京都大学, 工学研究科, 助教 (10462342)

研究協力者 Caneva Giulia Università di Roma Tre, Dipartimento di Scienze, Professor
 Mazurek Joy Getty Conservation Institute, Science Department, Assistant Scientist
 朴 春澤 ハイテック株式会社, 環境保全技術課

A01 公募研究 古代西アジアに興った一神教の起源と展開をめぐる実証的研究

研究代表者 月本 昭男 上智大学, 神学部, 教授 (10147928)

A02 公募研究 中世イスラーム世界における「古代」の継承と創造

研究代表者 亀谷 学 弘前大学, 人文社会科学部, 講師 (00586159)

A03 公募研究 アミノ酸ラセミ化法を用いた骨遺物の年代測定

研究代表者 南 雅代 名古屋大学, 年代測定総合研究センター, 准教授 (90324392)

A04 公募研究 プロテオミクス技術による古代タンパク質分析

研究代表者 河原 一樹 大阪大学, 薬学研究科, 特任助教(常勤) (60585058)

交付決定額 (配分額)

	合計	直接経費	間接経費
平成24年度	136,110千円	104,700千円	31,410千円
平成25年度	85,689千円	65,915千円	19,774千円
平成26年度	75,270千円	57,900千円	17,370千円
平成27年度	68,250千円	52,500千円	15,750千円
平成28年度	60,060千円	46,200千円	13,860千円
平成29年度	3,889千円	2,992千円	897千円
総計	429,268千円	330,207千円	99,061千円

研究発表

<発表論文>

研究項目 A01 人類史の転換点

A01 計画研究 1・常木 計 17 件 (査読有 7 件、査読無 10 件)

1. Itahashi, Y., Tsuneki, A., Dougherty, S. Chikaraishi, Y., Ohkouchi, N. and Yoneda, M. “Dining together: Reconstruction of Neolithic food consumption based on the $\delta^{15}\text{N}$ values for individual amino acids at Tell el-Kerkh, northern Levant”, *Journal of Archaeological Science: Reports*, 17 査読有, 775-784 (2018): <https://doi.org/10.1016/j.jasrep.2017.12.042>
2. “The burial of Neolithic blade producer”, Tsuneki A, *Al-Rāfidān*, 査読有, 38, 39-45 (2017)
3. “Excavations at Qalat Said Ahmadan, Qaladizah, Iraq-Kurdistan: Second interim report (2015 season)”, *Tsuneki A, K Rasheed, S A Saber, S Nishiyama, N Watanabe, T Greenfield, B B Ismail, Y Tatsumi and M Minami, *Al-Rāfidān*, 査読有, 37, 89-142 (2016).
4. “Another image of complexity: the case of Tell el-Kerkh”, Tsuneki A, In Y Nishiaki, K Kashima and M Verhoeven (eds) *Neolithic Archaeology in the Khabor Valley, Upper Mesopotamia and Beyond*. Berlin, ex oriente, 査読有, 188-204 (2013)
5. “Proto-Neolithic caves and neolithisation in the southern Zagros”, Tsuneki A, In R Matthews and H Fazeli Nashli (eds) *The Neolithisation of Iran, the Formation of New Societies*. Oxford, Oxbow Books, 査読無, 84-96 (2013)
6. “The archaeology of death in the Late Neolithic: a view from Tell el-Kerkh”, Tsuneki A, In O Nieuwenhuys, R Bernbeck, P M M G Akkermans and J Rogasch (eds) *Interpreting the Late Neolithic of Upper Mesopotamia*. Turnhout, Brepols Publishers, 査読有, 203-212 (2013)
7. “The Arsanjan prehistoric project and the significance of southern Iran in Human history”, *Tsuneki A, In H Fahimi and K Alizadeh (eds) *Nāmvarnāmeḥ, Papers in Honour of Massoud Azarnoush*. Tehran, Iran Nagar Publication, 査読無, 19-30 (2012)

A01 計画研究 2・丹野 計 19 件 (査読有 6 件、査読無 13 件)

1. “Relationship between spike morphology and habitat of four *Aegilops* species of section *Sitopsis*”, Ohta A, K Yamane and T Kawahara, *Genetic Resource and Crop Evolution*, 査読有, 64, 889-899 (2017)
2. 「デュラムコムギの国内生産に向けた栽培条件の検討」, *丹野研一, 坂和七月, 鎌田英一郎, 荒木英樹, 高橋肇, 『日本作物学会中国支部研究収録』, 査読無, 56, 10-11 (2016)
3. “Yerleşik bir Hasankeyf köyde avcı toplayıcı yaşam”, Maeda O, H Hongo and K Tanno, *Actuel Arkeoloji*, 査読無, 53, 40-47 (2016)
4. “Narrowing the harvest: Increasing sickle investment and the rise of domesticated cereal agriculture in the Fertile Crescent”, Maeda O, L Lucus, F Silva, K Tanno and *D Q Fuller, *Quaternary Science Reviews*, 査読有, 145, 226-237 (2016)
5. “Archeobotanical studies at and around Qalat Said Ahmadan”, *Tanno K, K Takata and T Kawahara, *Al-Rāfidān*, 査読有, 36, 59-63 (2015)
6. 「四倍性コムギにおける粉状質化子実の電子顕微鏡観察」, 岡崎大, 丹野研一, 山根京子, 河原太八, 鎌田英一郎, 荒木英樹, 高橋 肇, 『日本作物学会中国支部研究収録』, 査読無, 55, 23-24 (2015)

A01 計画研究 3・三宅 計 26 件 (査読有 6 件、査読無 20 件)

1. “Lithic analysis and the transition to the Neolithic in the upper Tigris valley: recent excavations at Hasankeyf Höyük”, O. Maeda, *Antiquity*, 査読有, 92 (361), 56-73 (2018).
2. “Preference for fish in a Neolithic hunter-gatherer community of the upper Tigris, elucidated by amino acid $\delta^{15}\text{N}$ analysis”, *Y. Itahashi, Y. Miyake, O. Maeda, O. Kondo, H. Hongo, W. Van Neer, Y. Chikaraishi, N. Ohkouchi and M. Yoneda, *Journal of Archaeological Science*, 査読有, 82, 40-49 (2017).
3. “Geographic mosaics and changing rates of cereal domestication”, *R.G. Allaby, C. Stevens, L. Lucas, O. Maeda and D.Q. Fuller, *Philosophical Transactions of the Royal Society, London B*, 査読有, 372 (1735): 20160429 (2017).
4. “Experimental implications for flint heat treatment at Hasankeyf Höyük”, Maeda O, In T Pereira et al. (eds) *Raw materials exploitation in Prehistory: sourcing, processing and distribution*. Cambridge Scholars Publishing, 査読有, 610-612 (2017)
5. “Inefficient practice of flint heat treatment at Hasankeyf Höyük: an anti-functional view”, Maeda O, *Journal of Lithic Studies*, 査読有, in print
6. “Decoration of Neolithic pottery in the northern Levant: a view from the Rouj Basin”, Odaka T, In *Painting Pots—Painting People: Late Neolithic Ceramics in Ancient Mesopotamia*, 査読有, 177-185 (2017)
7. “Origins of pottery as technological innovation in southwest Asia”, Miyake Y, In Ü Yalçın (ed) *Der Anschnitt Beiheft 31, Anatolian Metal VII*, Bochum, Deutschen Bergbau Museum, 査読無, 115-124 (2016)
8. “Recent Progress in the Neolithic Investigations of the Anatolian Tigris Valley”, Miyake Y, In Y Nishiaki, K Kashima and M Verhoeven (eds) *Neolithic Archaeology in the Khabor Valley, Upper Mesopotamia and Beyond*. Berlin, ex oriente, 査読有, 171-187 (2013)

A01 計画研究 4・久田 計 5 件 (査読有 2 件、査読無 3 件)

1. “Geology based culture?”, Hisada K, In A Tsuneki, S Yamada and K Hisada (eds) *Ancient West Asian Civilization-Geoenvironment and Society in the Pre-Islamic Middle East*, New York, Springer, 査読無, 15-38 (2016)
2. 「西アジアの大地形と地質」, 久田健一郎, 『西アジア文明学への招待』悠書館, 査読無, 46-58 (2014)
3. “Special Issue: Geology anatomy of East and South Asia”, *Metcalf I, K Hisada, J Xiaochi and L C Peng (guest editors), *Journal of Asian Earth Science*, 査読有, 61, 1-101 (2012)
4. “Paleozoic and Mesozoic ophiolites of Central Iran: amphibolites from Jandaq, Posht-e-Badam, Nain and Ashin ophiolites”, *Torabi G, N Shirdashtzadeh, S Arai and J Koepke, *Neues Jahrbuch für Geologie und Paläontologie-Abhandlungen*, 査読有, 262(2), 227-240 (2012)

A01 計画研究 5・本郷 計 17 件 (査読有 9 件、査読無 8 件)

1. “Documenting the initial appearance of domestic cattle in the Eastern Fertile Crescent (northern Iraq and western Iran)”, *Arbuckle B S, M D Price, H Hongo and B Oksüz, *Journal of Archaeological Science*, 査読有, 72, 1-9 (2016)
2. “Çayönü Tepesi: Bioarchaeology”, Hongo H, In C Smith (ed) *Encyclopedia of Global Archaeology*, Springer Reference, 査読無, 1188-1194 (2014)
3. “Pig domestication and human-mediated dispersal in western Eurasia revealed through ancient DNA and geometric morphometrics”, *Ottoni Cほか 28 名中 23 番目(H Hongo), *Molecular Biology and Evolution*, 査読有, 30 (4), 824-832 (2013)
4. “Faunal remains from Wadi Abu Tulayha: a PPNB outpost in the steppe-desert of Southern Jordan”, *Hongo H, L Omar, H Nasu and S Fujii, In B De Cupere, V Linseele and S Hamilton-Dyer (eds) *Archaeozoology of the Near East X*, Leuven, Peeters Publishers, 査読有, 1-25 (2013)
5. “Food and social complexity at Çayönü Tepesi, southeastern Anatolia: Stable isotope evidence of differentiation in diet according to burial practice and sex in the early Neolithic”, *Pearson J, M Grove, M Özbek and H Hongo, *Journal of Anthropological Archaeology*, 査読有, 32(2), 180-189 (2013)

A01 公募研究・月本 計 2 件 (査読有 2 件、査読無 0 件)

1. “In the shadow of thy wings; a review of the winged goddess in ancient Near Eastern iconography”, Tsukimoto A, *Orbis Biblicus et Orientalis*, 査読有, 160, 15-31 (2017)
2. “Humor und Ironie in der jahwistischen Urgeschichte”, Tsukimoto A, *Supplement of Vetus Testamentum, Munich Congress*, 査読有, 163, 333-346 (2014)

研究項目 A02 史料から見た都市性の解明

A02 計画研究 6・山田 計 23 件 (査読有 17 件、査読無 6 件)

1. “Shalmaneser V and His Era, Revisited,” K. Yamada, and *S. Yamada, In: *Now It Happened in Those Days": Studies in Biblical, Assyrian, and Other Ancient Near Eastern Historiography Presented to Mordechai Cogan on His 75th Birthday*, Winona Lake, IN: Eisenbrauns, 査読有, 341- 39 (2017).
2. “Transition Period”, Yamada S, In E. Frahm (ed) *A Companion to Assyria*, Malden, MA, 査読無, 108-116 (2017)
3. “Old Babylonian school exercises from Tell Taban, Yamada S, In S Yamada and D Shibata (eds) *Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC, vol. 1*, Wiesbaden, Harrassowitz Verlag, 査読有, 45-68 (2016)
4. “Economic activities of nadītum-women of Šamaš reflected in the field sale contracts (MHET II/1-6), Nakata I, In B Lion and C. Michel (eds) *The Role of Women in Work and Society in the Ancient Near East, Studies in Ancient Near Eastern Records Vol. 13*, Boston/Berlin, 査読有, 255-269 (2016)
5. “Inscriptions of Tiglath-pileser III: Chronographic-literary styles and the king’s portrait”, S Yamada, *Orient*, 査読有, 49, 167-179 (2014)
6. “An adoption contract from Tell Taban, the kings of the land of Hana, and the Hana-style scribal tradition,” Yamada S, *Revue d’assyriologie et d’archéologie orientale*, 査読有, 105, 61-84 (2013)
7. “Pudum rotation list from Tell Taban and the cultural milieu of Tābatum in the Post-Hammurabi period”, Yamada S, *Revue d’assyriologie et d’archéologie orientale* 105, 査読有, 137-156 (2013)

A02 計画研究 7・池田 計 15 件 (査読有 8 件、査読無 7 件)

1. “The World’s oldest writing in Mesopotamia and the Japanese writing system”, Ikeda J and Yamada S, In A Tsuneki, S Yamada and K Hisada (eds) *Ancient West Asian Civilization: Geoenvironment and Society in the Pre-Islamic Middle East*, Springer, 査読無, 157-163 (2016)
2. “Because she is a daughter of Emar: On the customary law for the female citizens of Emar”, Yamada M, *Orient*, 査読有, 51, 111-122 (2016)
3. “The land of Aštata in the 14th century B.C. before the Hittite conquest”, Yamada M, *Orientalia*, 査読有, 84, 276-291 (2015)
4. “The royal and urban authorities in Emar: a diachronic analysis of their relations”, Yamada M, *Al-Rāfidān*, 査読有, 35, 73-108 (2014)
5. 「アッカド文字と日本文字における訓の発生」, 池田潤, 『楔形文字文化の世界』聖公会出版, 査読無, 3 巻, 3-19 (2014)

6. “The broken staffs: disinheritance in Emar in the light of the laws of Hammurabi §169 and the Nuzi Texts”, Yamada M, *Orient*, 査読有, 49, 171-185 (2014)

A02 計画研究 8・柴田 計 32 件 (査読有 30 件、査読無 1 件)

1. “Review of Beate Pongratz-Leisten, *Religion and Ideology in Assyria*, Studies in Ancient Near Eastern Records Vol. 6, xviii, 553 pp., Boston and Berlin: Walter de Gruyter, 2015”, D. Shibata, *The Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, 査読有, 80/1, 128-130 (2017).
2. “An expedition of king Shalmaneser I and prince Tukulti-Ninurta to Carchemish”, Shibata D, In Heffron Y, Worthington M and Stone A (eds) *At the Dawn of History: Ancient Near Eastern Studies in Honour of J. N. Postgate*, Winona Lake, Eisenbrauns, 査読有, 491-506 (2017)
3. 「サーサーン朝ペルシアと東方のヘルメス主義」, 青木 健, 『説話・伝承学』, 査読有, 24, 63-79 (2016)
4. “The administrators and notables in Nubia under Tutankhamun”, Kawai N, In R Jasnow and K Coonery (eds) *Joyful in Thebes. Egyptological Studies in Honor of Betsy M. Bryan*, Atlanta, Lockwood Press, 査読有, 309-322 (2015)
5. “Hemerology, extispicy and Ilī-padā’s illness”, Shibata D, *Zeitschrift für Assyriologie und Vorderasiatische Archäologie*, 査読有, 105, 139-153 (2015)
6. “The conquests of Hazael in 2 Kings 13: 22 in the Antiochian Text”, Hasegawa S, *Journal of Biblical Literature*, 査読有, 133, 61-76 (2014)
7. “Life in the margins: Shihāb al-Dīn Aḥmad al-‘Aynī, a non-elite intellectual in the Mamlūk period”, Nakamachi N, *Orient*, 査読有, 48, 95-111 (2013)

A02 公募研究・亀谷 計 3 件 (査読有 1 件、査読無 2 件)

1. 「初期イスラーム時代における政治的コミュニケーションの構造とその変化」, 亀谷学, 『歴史学研究』, 査読有, 950, 164-173 (2016)
2. 「中世イスラーム世界の旅行記と驚異譚—驚異を目にした人々—」, 亀谷学, 『<驚異>の文化史：中東とヨーロッパを中心に』名古屋大学出版会, 査読無, 58-75 (2015)
3. 「ピラミッドという驚異—中世イスラーム世界における認識とアプローチ」, 亀谷学, 『<驚異>の文化史：中東とヨーロッパを中心に』名古屋大学出版会, 査読無, 307-317 (2015)

研究項目 A03 古環境と人間社会

A03 計画研究 9・丸岡 計 12 件 (査読有 12 件、査読無 0 件)

1. “Paleoproterozoic meta-carbonates from the central segment of the Trans-North China Orogen: Zircon U-Pb geochronology, geochemistry, and carbon and oxygen isotopes”, Tang L, *M Santosh, T Tsunogae and T Maruoka, *Precambrian Research*, 査読有, 284, 14-29 (2016)
2. “Sulphur geodynamic cycle”, *Kagoshima T, Y Sano, N Takahata, T Maruoka, T P Fischer and K Hattori, *Scientific Reports*, 査読有 5, Article number 8330 (2015)
3. “Inferring origin of mercury inclusions in quartz by multifractal analysis”, *T Shibata, T Maruoka, T Echigo, *Nonlinear Processes in Geophysics*, 査読有, 22, 47-52 (2015)
4. 「同位体質量分析計を用いた環境変動解析」, 丸岡 照幸, *Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan*, 査読有, 62(5), 49-60 (2014)
5. “Evaluation of UV-fs-LA-MC-ICP-MS for precise in situ copper isotopic microanalysis of cubanite”, *Ikehata K and Hirata T, *Analytical Sciences*, 査読有, 29, 1213-1217 (2013)
6. “Multi-element isotopic analyses of presolar graphite grains from Orgueil”, *M Jadhava, E Zinner, S Amari, T Maruoka, K K Marhas, R Gallino, *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 査読有, 113, 193-224 (2013)

A03 計画研究 10・安間 計 8 件 (査読有 6 件、査読無 2 件)

1. “Holocene fluvial and anthropogenic processes in the region of Uruk in southern Mesopotamia”, *Jotheri, J., Altaweel, M., Tuji, A., Anma R., Pennington, B., Rost, S., Watanabe, C., *Quaternary International*, 査読有, available online, 1-13 (2017).
2. “The Kuradawe granitic pegmatite from the Mawat ophiolite, Northern Iraq: Anatomy, Mineralogy, Geochemistry and Petrogenesis”, *Mohammad Y O, H J Kareem, D H Cornell and R Anma, *The Canadian Mineralogist*, 査読有, 54(4), 989-1019(2016)
3. “Paleoclimatic changes and human cultural evolution in West Asia”, Anma R and Maruoka T, In Tsuneki A, Yamada S and Hisada K (eds) *Ancient West Asian Civilization-Geoenvironment and Society in the Pre-Islamic Middle East*, Springer, 査読無, 51-63 (2016)
4. “Age and petrogenesis of Na-rich felsic rocks in western Iran: evidence for closure of the southern branch of the Neo-Tethys in the Late Cretaceous”, *Nouri F, H Azizi, J Golonla, Y Asahara, Y Orihashi, K Yamamoto, M Tsuboi and R Anma, *Tectonophysics*, 査読有, 671, 151-172 (2016)
5. “Appendix 1: Stones used in the Qalat Said Ahmadan and their sources”, Anma R, *Al-Rafidan*, 査読有, 36, 51-53 (2015)
6. “Integrated seismic source model of the 2015 Gorkha, Nepal, earthquake”, *Yagi Y and Okuwaki R, *Geophysics*

Research Letter, 査読有, 42, 6229-6235 (2015)

7. “Environmental fluctuations in the northwestern Pacific Ocean during the last interglacial period: evidence from radiolarian assemblages”, Yasudomi Y, Motoyama I, Oba T and *Anma R, *Marine Micropaleontology*, 査読有, 108, 1-12 (2014)

A03 計画研究 11・八木 計 2 件 (査読有 2 件、査読無 0 件)

1. 「震源過程インバージョンに用いるフィルターの影響」, 八木勇治, 『地震』, 査読有, 66 (4), 147-149 (2014)
2. “An interpretation of Tsunami earthquake based on a simple dynamic model: Failure of shallow megathrust earthquake”, *Mitsui Y and Yagi Y, *Geophysical Research Letters*, 査読有, 40, 1523-1527 (2013)

A03 計画研究 12・黒澤 計 11 件 (査読有 3 件、査読無 8 件)

1. “PIXE and microthermometric analyses of fluid inclusions in hydrothermal quartz from the 2.2 Ga Ongeluk Formation, South Africa: implications for ancient seawater salinity”, *T Saito, T Shibuya, T Komiya, K Kitajima, S Yamamoto, M Nishizawa, Y Ueno, M Kurosawa and S Maruyama, *Precambrian Research*, 査読有, 286, 337-351 (2016)
2. “The new 6 MV multi-nuclide AMS facility at the University of Tsukuba”, *K Sasa, T Takahashi and M Matsumura, *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B*, 査読有, 361, 124-128 (2015)
3. “Mineralogical study of pottery from Tappeh Sange-e Chakhmaq”, Kurosawa M, In A Tsuneki (ed) *The First Village in Northeast Iran and Turan: Tappeh Sange-e Chakhmaq and Beyond*, 査読無, 19-22 (2014)
4. “Methodological study on exposure date of Tiankeng by AMS measurement of in situ produced cosmogenic ³⁶Cl”, *Dong K, L Shizhuo, M He and K Sasa, *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B*, 査読有, 294, 611-615 (2013)
5. “Properties of fast carbon cluster microbeams produced with a tapered capillary”, *Tsuchida H, S Tomita, K Nishimura, R Murakoshi, M Naitoh and K Sasa, *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B*, 査読有, 293, 6-10 (2012)

A03 公募研究・南 計 3 件 (査読有 2 件、査読無 1 件)

1. 「限外ろ過法を用いた化石骨の 14C 年代測定-これまでの総括-」, 南雅代, 坂田健, 中村俊夫, 『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』 査読無, 25, 164-170 (2014)
2. “Small-mass AMS radiocarbon analysis at Nagoya University”, *Minami M, T Kato, Y Miyata, T Nakamura and Q Hua, *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B*, 査読有, 294, 91-96 (2013)
3. “Radiocarbon dating of VIRI bone samples using ultrafiltration”, *Minami M, K Yamazaki, T Omori and T Nakamura, *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B*, 査読有, 294, 240-245 (2013)

研究項目 A04 文化遺産の保存

A04 計画研究 13・谷口 計 9 件 (査読有 2 件、査読無 7 件)

1. “Scientific Research for Conservation of Rock hewn church, Üzümlü (Cappadocia) in 2015”, Y. Taniguchi, Koizumi Keigo, Iba Chiemi, Watanabe Kunio, *38th International Symposium of Excavations, Surveys and Archaeometry*, 23-27 May, Edirne, 査読無, 525-544 (2017).
2. “Digital non-metric image-based documentation for the preservation and restoration of mural paintings: the case of the Üzümlü rock-hewn church, Turkey”, *Higuchi R, T Suzuki, M Shibata, Y Taniguchi and M Gülyaz, *Virtual Archaeology Review*, 査読有, 7, 31-42 (2016)
3. “Do archaeological and conservation sciences save cultural heritage?: Cultural identity and reviving values after demolishment”, Taniguchi Y, In Tsuneki A, Yamada S and Hisada K (eds) *Ancient West Asian Civilization-Geoenvironment and Society in the Pre-Islamic Middle East*, Springer, 査読無, 179-197 (2016)
4. “Scientific research for conservation of the rock hewn church of Uzumlu, Cappadocia”, *Taniguchi Y, K Koizumi, C Iba, J Porter, F Acikgoz and M Gülyaz, *37th International Symposium of Excavations, Surveys and Archaeometry, Erzurum 11-15 May 2015*, 査読無, 361-378 (2016)
5. “Characterization of binding media in Egyptian Romano portraits using Enzyme-Linked Immunosorbant Assay and Mass Spectrometry”, *Mazurek J, M Svoboda, J Maish, K Kawahara, S Fukakusa, T Nakazawa and Y Taniguchi, *e-Preservation Science*, 査読有, 11, 76-83 (2014)
6. 「西アジアの文化遺産をまもる」, 谷口陽子, 『西アジア文明学への招待』 悠書館, 査読無, 240-257 (2014)

A04 公募研究・河原 計 2 件 (査読有 1 件、査読無 1 件)

1. 「プロテオミクス技術による古代タンパク質分析」, 河原一樹, 『現代文明の基層としての古代西アジア文明 Newsletter』, 査読無, 6, 1-2 (2015)
2. “Characterization of binding media in Egyptian Romano portraits using Enzyme-Linked Immunosorbant Assay and Mass Spectrometry”, *Mazurek J, M Svoboda, J Maish, K Kawahara, S Fukakusa, T Nakazawa and Y Taniguchi, *e-Preservation Science*, 査読有, 11, 76-83 (2014)

<学会発表>

1. 常木晃・渡部展也・安間了・アハマッド＝サーベル「肥沃な三日月地帯東部の新石器化—イラク・クルディスタン、スレマニ周辺の先史時代遺跡踏査（2016年）」考古学が語る古代オリエント、2017年
2. Miyake, Y. “Sedentary hunter-gatherer community at Hasankeyf Hoyuk”, *Sedentism, Subsistence and Societies in Neolithic Anatolia: New insights from Hasankeyf Hoyuk*, 2017年
3. Maeda, O. “Deliberately insufficient: technological practice of flint heat treatment at Neolithic Hasankeyf Hoyuk”, 10th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East. 2017年
4. Tsuneki, A. “Qalat Said Ahmadan prehistoric pottery sequence, The Later Prehistory of the Shahrizor: Discoveries and Questions”, Expert Meeting at the University of Sulaimaniya, 2016年
5. Tsuneki, A. “Introduction to the symposium on the future of the Syrian cultural heritage”, T15G Future of the Syrian Cultural Heritage under the Crisis: Considering the framework for the Post-war Rehabilitation. The Eighth World Archaeological Congress, 2016年
6. 常木晃、西山伸一、アハマッド・サーベル、渡部展也「肥沃な三日月地帯東部の新石器化・都市化—イラク・クルディスタン、カラート・サイド・アハマダン遺跡調査（2015年）」考古学が語る古代オリエント、2016年
7. 本郷一美「家畜化前後の動物利用」学融合推進センタープロジェクトセミナー：料理の環境文化史、2016年
8. Hongo, H. “Successful or unsuccessful transition to food production: the cases at Çayönü and Hasankeyf Höyük”, *Symposium Animals: Cultural Identifiers in Ancient Societies?*, 2016年
9. Hisada, K. and Tsuneki, A. “Geologic Background of the Site of Tappeh Sang-e Chakhmaq (Neolithic Culture Layer), Iran”, The 34th National and 2nd International Geosciences Congress, 2016年
10. 山田重郎「新アッシリア時代のエポニム表とエポニム年代誌：内容・形式の変化とその歴史的・思想的背景」第59回シュメール研究会、2016年
11. Shibata, D. and S. Yamada “Calendars and Festivals of Tabatum/Tabetu and its surroundings in the second millennium BC”, *Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC: Calendars and Festivals*, 2016年
12. 山田雅道「エマル文書に見る妻の再婚：是か非か」第59回シュメール研究会、2016年
13. Yamada, M. “The zuku cycle in Emar in the light of the agricultural rites performed in the first month”, *Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC*, 2016年
14. 申基澈・安間了・中野孝教・横尾頼子・渡辺千香子「イラク地域の堆積物から見た粘土板の産地追跡」第6回同位体環境学シンポジウム、2016年
15. 安間了・横尾頼子・浅井公輔・申基澈・中野孝教「水と堆積物の組成・同位体比からみる西アジア表層部・大気中の元素循環」第6回同位体環境学シンポジウム、2016年
16. Asai, K., Yokoo, Y., Anma, R., Mehrabani, S. “Effects of soil, sea salt and anthropogenic activities on precipitation chemistry in western Iran”, Goldschmidt Conference, 2016年
17. Anma, R., Shin, K.-C., Nakano, T., Yokoo, Y., Asai, K. “Geochemistry of Mesopotamian clay tablets and strontium isotopic cycle in West Asia”, 地球惑星科学関連学会合同大会、2016年
18. Tuji, A., Anma, R., Watanabe, C. E. “Biological investigation of clay tablets in the context of palaeo-environment”, ICAANE meeting, 2016年
19. Anma, R. “Paleoclimatic changes and human cultural evolution in and around the Arabian Peninsula”, European Geoscience Union General Assembly, 2016年
20. 丸岡照幸「熱分解型元素分析装置付き同位体質量分析システムを利用した固体試料酸素同位体比分析」日本質量分析学会同位体比部会研究会、2016年
21. 丸岡照幸「炭酸塩置換態硫酸の硫黄同位体組成を利用した古環境変動解析」第64回質量分析総合討論会、2016年
22. Taniguchi, Y. “Scientific Research for Conservation of Rock hewn church, Üzümlü (Cappadocia) in 2015”, 38th International Symposium of Excavations, Surveys and Archaeometry, 2016年
23. Tsuneki, A. “Tell el-Kerkh (Idlib)”, International Syrian Congress on Archaeology and Cultural Heritage, 2015年
24. Tsuneki, A. “The role of cultural heritage and its current condition in Iraq and Syria”, Tsukuba Global Science Week 2015: Culture and Security: Exploring Future Values through Japanese Experience, 2015年
25. 常木晃、西山伸一、アハマッド・サーベル、長谷川敦章、辰巳祐樹、宮内優子「肥沃な三日月地帯東部の新石器化・都市化—イラク・クルディスタン、カラート・サイド・アハマダン遺跡調査（2014年）」考古学が語る古代オリエント、2015年
26. 常木晃「西アジア型農耕の始まり」第8回アジア考古学4学会合同講演会：アジアにおける農耕の起源と拡散、2015年
27. 本郷一美「家畜の優等生、ブタ：家畜化と人の多様な関わり」生き物文化誌学会沖縄例会、2015年

28. 本郷一美「動物考古学からみた家畜化と乳利用開始」 シンポジウム：家畜化と乳利用その地域的特質をふまえて－搾乳の開始を巡る谷仮説をめぐって、2015年
29. 本郷一美「ウシの家畜化と東アジアへの伝播」牛車研究会、2015年
30. Hisada, K., Kamata, Y., Arai, S. and Poshtkoohi, M. “Neyriz Ophiolite in the Zagros Mountains, Iran”, IAGR Annual Convention & 12th International Conference on Gondwana to Asia, 2015年
31. Hisada, K and Poshtkoohi, M. “Geological significance of West Asia for development of ancient cultures”, The 4th International Symposium of the International Geosciences Programme Project 589, 2015年
32. Numoto, H., D. Shibata and S. Yamada “Excavations at Tell Taban: Culture and History at Tābatum/Tābetu during the second millennium B.C”, International Syrian Congress on Archaeology and Cultural Heritage, 2015年
33. 渡辺千香子「動物が象徴する古代メソポタミアの精神世界」関西学院大学西洋史研究会第18回年次大会、2015年
34. 山田重郎「新アッシリア王碑文の編年記録－スタイルの変化とその背景について」第58回シュメール研究会、2015年
35. Novotny, J. and C. E. Watanabe “Identifying the four foreigners paying homage to Assurbanipal in BM ME 124945-6 through textual and pictorial sources”, 61st Rencontre Assyriologique Internationale, Geneva, 2015年
36. 山田重郎「古バビロニア時代のタバトゥム(テル・タバンの)書記教育」日本オリエント学会第57回大会、北海道大学、2015年
37. Yamada, S. “Neo-Assyrian Eponym Lists and Eponym Chronicles: Stylistic variants and their historical-ideological background”, Melammu Symposium 9: Conceptualizing Past, Present and Future, 2015年
38. 安間了・申基徹・昆慶明・横尾頼子・中野孝教・渡辺千香子「地球化学フィンガープリントによるメソポタミア粘土板の原産地推定の試み」第5回同位体環境学シンポジウム、2015年
39. 浅井公輔・横尾頼子・安間了・Mehrabani, S. 「イラン4都市の降水の主要イオン組成とSr同位体比」第5回同位体環境学シンポジウム、2015年
40. Anma, R., Shin, K.-C., Nakano, T., Kon, Y., Yokoo, Y., Watanabe, C., Tuji, A., Koizumi, T., Altaweel, M., Marsh, A., Jotheri, J. “Geochemical studies on clay tablets and sediments from Mesopotamia”, Advances in Geoarchaeological Approaches to Ancient Mesopotamia: Tablets, Paleogeography and Microfossils, 2015年
41. 安間了・申基徹・中野孝教・昆慶明・辻彰洋・渡辺千香子・横尾頼子・ラシード カマル「スレイマニヤ博物館所蔵のメソポタミア粘土板胎土の組成」日本地質学会第122年学術大会、2015年
42. 安間了・申基徹・中野孝教・昆慶明・辻彰洋・渡辺千香子・横尾頼子・ラシード カマル「メソポタミア粘土板胎土の組成と原産地特定の試み」地球惑星科学関連学会合同大会、2015年
43. 丸岡照幸「連続フロー型同位体質量分析装置による固体試料の酸素同位体比分析」日本質量分析学会同位体比部会研究会、2015年
44. Ikehata, K., K. Chida, T. J. Bornhorst, J. Ishibashi and T. Hirata “Using copper isotopic composition to distinguish native copper formation mechanisms”, 2015 Geological Society of America, Annual Meeting, 2015年
45. Ikehata, K., J. Ishibashi and T. Hirata “Copper isotope systematics of chalcopyrites in ancient and modern seafloor hydrothermal deposits, measured by a femtosecond LA-MC-ICP-MS”, Society of Economic Geologist(SEG) 2015 Conference, 2015年
46. 丸岡照幸「固体試料の酸素同位体比分析のための連続フロー型同位体質量分析装置の開発」第63回質量分析総合討論会、2015年
47. 黒澤正紀・三澤真弓「顕微ラマン分光法による多相包有物中の固相の分析」日本鉱物科学会 2015年年会、2015年
48. Higuchi, R. T. Suzuki, M. Shibata and Y. Taniguchi “Methodology of High-resolution Photography for Mural Condition Database”, CIPA 25th International Symposium, 2015年
49. Khazaeli, R., M. Mashkour, C. Daujeard, F. Biglari and A. Tsuneki “The taphonomical study on two faunal assemblages from Middle Paleolithic sites in Southern Zagros and central Iran: Qaleh Bozi (Esfahan) and Tang-e Shekan Cave (Fars)”, 12th International Conference of Archaeozoology, 2014年
50. Tsuneki, A. “Tappeh Sang-i Chahmaq and the Neolithization of Northeastern Iran”, 9th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East, 2014年
51. 常木晃・西山伸一・辰巳祐樹・フェレイドゥン＝ビッグラリ「南イラン・アルサンジャン地区の新石器化・都市化－2013年の踏査より」考古学が語る古代オリエント、2014年
52. Tsuneki, A. “The site of Tappeh Sang-e Chahmaq”, The First Farming Village in Northeast Iran and Turan: Tappeh Sang-e Chahmaq and Beyond, 2014年
53. Hongo, H. “Resource exploitation in the early Neolithic and the transition to food production: zooarchaeological evidence from Southwest Asia”, 総研大国際シンポジウム「現生人類の拡散による遺伝子と文化に関する総合的研究」、2014年
54. 本郷一美「考古学遺跡における消費活動の変化」学融合推進センタープロジェクトセミナー「料理の環境文化史」、2014年

55. 本郷一美「狩猟から牧畜へ：肉食行為の変化」国立民族学博物館共同利用研究会「肉食行為の研究」、2014年
56. Hisada, K. “Geologic setting around Tappeh Sang-i Chaxmaq”, International workshop: The First Farming Village in Northeast Iran and Turan: Tappeh Sang-e Chakhmaq and Beyond, 2014年
57. Hisada, K., Tsuneki, A., Kamata, Y., Chiba, T. and Poshtkoohi, M. “Archaeological Geology and Mesozoic Limestone Terrane in the Arsanjan Area, South Iran”, 32nd National and the 1st International Geosciences Congress, 2014年
58. Hisada, K., Kamata, Y., Arai, S. and Poshtkoohi, M. “Obduction of Neyriz ophiolite”, The Third International Symposium of the International Geological Correlation Programme 589; Development of the Asian Tethyan realm: Genesis, Process and Outcomes, 2014年
59. Yamada, S. “Ulluba and Its Surroundings: Tiglath-pileser III’s province making facing the Urartian border reconsidered from royal inscriptions and letters”, Interaction, Interplay and Combined Use of Different Sources in Neo-Assyrian Studies: Monumental Texts and Archival Sources, 2014年
60. 山田重郎「楔形文字文書に見るメソポタミアのビールとワイン」公開シンポジウム「古代西アジアの食文化：ワインとビールの物語」、2014年
61. Yamada, S. “Chronographic Patterns and the Sense of Chronology in the Neo-Assyrian Royal Inscriptions”, International Meeting: Writing Neo-Assyrian History: Sources, problems and approaches, 2014年
62. Novotny, J. and C.E. Watanabe “Unraveling the mystery of an unrecorded event: identifying the four foreigners paying homage to Ashurbanipal in BM ME 124945–6”, Interaction, Interplay and Combined Use of Different Sources in Neo-Assyrian Studies: Monumental Texts and Archival Sources, 2014年
63. Yamada, M. “On the kubuddā’u in the Emar Texts”, REFEMA Final Conference, 2014年
64. 山田雅道「特殊な『世話』契約としてのRE 6」日本オリエント学会第56回大会、2014年
65. Yamada, M. “The Women Designated ‘Man and Woman’ in Emar and Ekalte”, REFEMA 4th Workshop, 2014年
66. 池田潤「アッカド文字と日本文字における訓について」日本オリエント学会公開講演会、2014年
67. 安間了・申基徹・横尾頼子「堆積物に探る最終間氷期以降のアラビア半島・西アジアの環境変動：プロジェクト紹介」第4回同位体環境学シンポジウム、2014年
68. 安間了「西アジアの地質・自然環境と人類史」日本地質学会第121年学術大会、2014年
69. 安間了「ジルコロジーの考古学への応用の可能性をさぐる」フィッショントラック研究会、2014年
70. 丸岡照幸「連続フロー型同位体質量分析装置によるりん酸塩酸素同位体比分析」日本質量分析学会同位体比部会研究会、2014年
71. Ikehata, K., K. Chida, T.J. Bornhorst, J. Ishibashi and T. Hirata “Copper isotope systematics of the various types of native copper mineralization”, 2014 Geological Society of America Annual Meeting, 2014年
72. 常木晃、大沼克彦、シャガヤガ・ホルシード、古里節夫「南イランにホモ・サピエンスの足跡を探る—アルサンジャン・プロジェクト2012」考古学が語る古代オリエント、2013年
73. Miyake, Y. “The origins of pottery in Anatolia”, Anatolian Metals VII, 2013年
74. 三宅裕「西アジアにおける銅利用の開始とその技術的展開」アジア考古学四学会合同講演会、2013年
75. Hongo, H., Arai, S., Gündem, C.Y., Miyake, Y. and Tanno, K. “Animal exploitation at an early sedentary village on upper Tigris: Faunal remains from Hasankeyf Höyük (Batman, Turkey)”, The 11th Meeting of Archaeozoology of Southwest Asia and Adjacent Areas, 2013年
76. Hongo, H. “Man/Animal interaction at the time of Neolithization - Examples from the Near East and East Asia”, 日本学術振興会日仏ワークショップ、2013年
77. 久田健一郎・常木晃「南イラン・アルサンジャン A5-3 石灰岩洞窟における4万3千年以前の風成塵堆積相と石器供給源」日本地球惑星科学連合大会、2013年
78. Hisada, K., Tsuneki, A., Kamata, Y., Chiba, T. and Poshtkoohi, M. “Archaeological Geology and Mesozoic Limestone Terrain of the Zagros Mountains, South Iran”, IGCP589: Development of the Asian Tethyan Realm: Genesis, process and outcomes, 2013年
79. S. Yamada “Old Babylonian School Exercises from Tell Taban”, Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC: Scribal Education and Scribal Tradition, 2013年
80. Yamada, M. “Because She is a Daughter of Emar”, REFEMA 2nd Workshop, 2013年
81. Yamada, M. “On amīltūtu in Emar”, REFEMA 3rd Workshop, 2013年
82. 山田雅道「UET VII 41 再考」第56回シュメール研究会、2013年
83. Yamada, M. “The Emar Texts: Their Chronological Framework and Historical Implications”, Emar Workshop: History and Chronology of Emar, 2013年
84. Ikeda, J. “Japanese Logosyllabic Writing: A Comparison with Cuneiform Writing”, Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC, 2013年
85. 安間了・谷口陽子・丸岡照幸・黒澤正紀「考古学へのジルコロジー応用の可能性」日本地球化学会、2013年

86. 丸岡照幸「同位体質量分析を用いた環境変動解析に関する研究」質量分析総合討論会、2013年
87. 池端慶「銅同位体比局所分析法の開発と資源地質学への応用」2013年度資源地質学会年会、2013年
88. Ikehata, K., J. Ishibashi, R. Suzuki and T. Hirata “Copper isotope variations of copper-rich minerals in seafloor hydrothermal deposits and igneous rocks, measured by a femtosecond LA-MC-ICP-MS”, American Geophysical Union, Spring Meeting 2013, 2013年
89. 黒澤正紀・常木晃「イラン新石器時代タペ・サンギチャハマック遺跡の土器の焼成組織と構成鉱物」日本地球化学会 2013 年年会、2013年
90. 黒澤正紀・笹公和・石井聡「PIXEによる単一流体包有物の微量元素分析」日本地球惑星科学連合大会、2013年
91. Tsuneki, A. and Hourshid, S. “Archaeological excavations at Seyed Khatoon cave (A5-3), Arsanjan township, Fars province”, Exhibition of the Newly Discovered Archaeological Finds, 2008-2011, 2012年
92. Tsuneki, A., Mirzaii, A., and Hourshid, S. “The Arsanjan project 2011-2012”, The 11th Annual Symposium of Iranian Archaeology, 2012年
93. Tsuneki, A. “Tappeh Sang-i Chaxmaq and the Origin of the Jeitun Culture”, Workshop on the Archaeology of Neolithic and Early Chalcolithic/Aeneolithic Central Iran and Turan, 2012年
94. Hisada, K. and Kamata, Y. “Stratigraphy of radiolarite in the turbiditic radiolaritic subzone of the High Zagros, southern Iran”, IGCP 589: Development of the Asian Tethyan Realm: Genesis, Process and Outcomes, 2012年
95. 久田健一郎・常木晃・千葉崇「南イラン、アルサンジャン地域の円錐形孔遺構中の風成層堆積物から淡水生珪藻の発見；世界最古の水場か？」日本地球惑星科学連合大会、2012年
96. 黒澤正紀「PIXEによる花崗岩と隕石母天体の流体包有物の分析」UTTACセミナー 2012年
97. 黒澤正紀「PIXEによる地球科学試料の分析」UTTACセミナー、2012年

<図書>

1. 『イスラームは特殊か 西アジアの宗教と政治の系譜』 *柴田大輔・中町信孝(編), 勁草書房 (2018) 363 ページ
2. 『アフリカを脱出した人類最初の奇跡ー西アジア・ザグロスの考古地質学』久田健一郎(編) 愛智出版 (2018) 159 ページ
3. “The Emergence of Pottery in West Asia”, Tsuneki A, Nieuwenhuys O and Campbell S (eds), Oxford & Philadelphia, Oxbow Books (2017) 192pages
4. “Tarikh Suria fi Mia Muwaqa Ashariya”, Kanjou Y and Tsuneki A (eds), Salhani Printing Establishment, Damascus (2017) 445pages
5. 『ネブカドネザル2世: バビロンの再建者』, 山田重郎, 山川出版社 (2017) 104 ページ
6. “Ancient West Asian Civilization: Geoenvironment and Society in the Pre-Islamic Middle East”, Tsuneki A, Yamada S and Hisada K (eds), New York, Springer (2016) 230pages
7. “Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC: Scribal Education and Scribal Traditions”, Yamada S and Shibata D (eds), Wiesbaden, Harrassowitz Verlag (2016) 191pages
8. “A History of Syria in One Hundred sites”, Kanjou Y and Tsuneki A (eds), Oxford, Archaeopress (2016) 451pages
9. 『西アジア文明学への招待』筑波大学西アジア文明研究センター(編), 悠書館 (2014) 284pages
10. 『ハンムラビ王―法典の制定者―』, 中田一郎, 山川出版社 (2014) 95 ページ
11. 『楔形文字文化の世界』, 柴田大輔(編), 聖公会出版 (2014) 224 ページ
12. 『旧約聖書の謎 隠されたメッセージ』, 長谷川修一, 中央公論新社 (2014) 256 ページ

<主催シンポジウム等の状況>

1. 国際ワークショップ “Preparing the Manuals for the Protection of Syrian Cultural Heritage”, 2017年3月22-23日、筑波大学、計画研究1と13の合同ワークショップ、参加25名
2. 全体シンポジウム「西アジア文明学の創出2：古代西アジア文明が現代に伝えること」、2017年3月3-4日、池袋サンシャインシティ文化会館、本領域全体の成果発表シンポジウム、参加200名
3. 公開シンポジウム「中世イスラーム世界における複数の「古代」の継承と統合」、2017年1月29日、筑波大学東京キャンパス、計画研究8による成果発表、参加30名
4. 国際シンポジウム “Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas: Calendars and Festivals”, 筑波大学、2016年3月23-24日、計画研究6,7,8の合同シンポジウム、参加50名
5. 公開講演会「建造物彩色・壁画の保存修復に用いる注入用の石灰モルタルに関する講演会およびワークショップ」、2016年2月12日、筑波大学、計画研究13による研究会、参加25名
6. 国際シンポジウム “Interaction, Interplay and Combined Use of Different Sources in Neo-Assyrian Studies: Monumental Texts and Archival Sources”, 2015年12月11-13日、筑波国際会議場、計画研究6,7,8の合同シンポジウム、参加70名
7. 全体シンポジウム「西アジア文明学の創出1：今なぜ古代西アジア文明なのか?」、2015年6月26-27日、池袋サンシャインシティ文化会館、本領域研究全体の中間成果発表シンポジウム、参加250名

8. 国際シンポジウム “The First Farming Village in Northeast Iran and Turan: Tappeh Sang-e Chakhmaq and Beyond”、2014年2月10-11日、筑波大学、計画研究1によるシンポジウム、参加35名
9. 国際シンポジウム “Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas: Scribal Education and Scribal Tradition”、2013年12月5-6日、筑波大学、計画研究6,7,8の合同シンポジウム、参加50名
10. 公開シンポジウム「西アジアの地質とテクトニクス」、2012年12月12日、筑波大学、計画研究4,9,11による合同シンポジウム、参加60名

<ホームページ・新聞等>

ホームページ：西アジア文明研究センター <http://rcwasia.hass.tsukuba.ac.jp/kaken>
 ホームページ：筑波大学アナトリア調査団 http://rcwasia.hass.tsukuba.ac.jp/scy/scy_jp/index.html
 ホームページ：シリアアラブ共和国における文化遺産保護国際貢献事業 <http://rcwasia.hass.tsukuba.ac.jp/bunka/>
 新聞記事：読売新聞「シリアの文化遺産どう守るか」2018年3月14日
 新聞記事：読売新聞「新アッシリア辺境の未盗掘墓」2018年2月7日
 新聞記事：Tishrin紙（シリア）、「100の遺跡が語るシリアの歴史アラビア語版の記事」2017年2月20日
 新聞記事：Tishrin紙（シリア）、「100の遺跡が語るシリアの歴史英語版の記事」2016年11月28日
 新聞記事：Hurriyet Daily News紙（トルコ）、2013年8月31日
 新聞記事：Batman Dogus紙（トルコ）、Batman Gazetesi紙（トルコ）、2013年8月29日
 新聞記事：朝日新聞、2013年4月22日

<アウトリーチ活動>

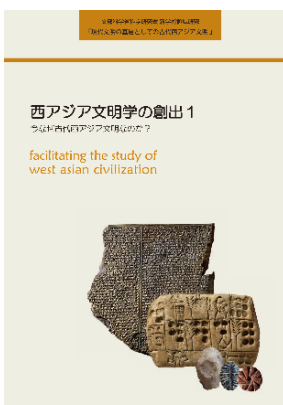
1. 『現代文明の基層としての古代西アジア文明 newsletter』Vol.1 (2012)～Vo.9 (2017)を発行 各200部
2. 2017.8.2放映 NHK テレビBS1 国際報道2017「セカトレ：シリア文化遺産を守るのは心の問題」奈良パルミラ会議での発表の様子とレバノンでの100sites本配布の紹介
3. 2016.10.5放映: Kurdsat テレビ Kurdsat Magazine「YasinTepeの発掘調査」インタビュー
4. 2016.5.10放映: フジテレビ みんなのニュース「パルミラ」インタビュー
5. 2016.5.10放映: フジテレビ ユアタイム～あなたの時間～「パルミラ」インタビュー
6. 2015.8.18放送: NHK ラジオ 先読み夕方ニュース「ISのパルミラ占領」インタビュー
7. 2015.2.27放映: NHK キャッチ！インサイト「シリア危機の遺跡を救うために」インタビュー
8. 2015.2.26放映: NHK 暮らし☆解説「危機のシリア遺跡を救うために」インタビュー
9. 2014.8.10放映: NHK「これから体感！グレートネイチャー：追跡！石油を育んだ太古の海～イラン・ザグロス山脈～」出演、監修
10. 2013.11.23放映: TBS 世界ふしぎ発見 第1297回「人類最古の神殿がトルコにあった」出演
11. クローズアップ展示『ティグリス河流域の新石器時代』2014年2月15日～3月23日、古代オリエント博物館（池袋サンシャインシティ文化会館）

研究成果

総括班

現代世界の根幹部分を正しく理解し相互理解を進めていくために、古代西アジア文明の特筆すべき先進性と普遍性の根源を抽出し総合することで、なぜ、そしてどのように西アジア文明が現代世界の基層となり得たのかについての解明を目指しました。

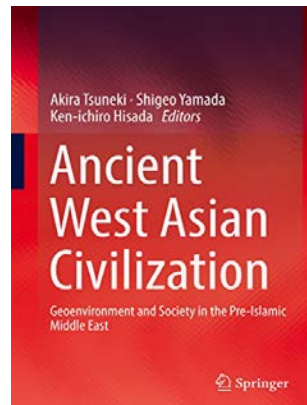
①



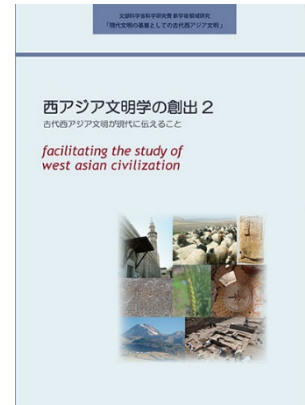
②



③



④



- ① 『西アジア文明学の創出 1 : 今なぜ西アジア文明なのか?』 *Facilitating the Study of West Asian Civilization: What Does Ancient West Asia Tell Us?* 筑波大学西アジア文明研究センター編 Research Center for West Asian Civilization (ed.) 2014年6月
- ② 『西アジア文明学への招待』 筑波大学西アジア文明研究センター編、悠書館、東京、2014年12月
- ③ *Ancient West Asian Civilization: Geoenvironment and Society in the Pre-Islamic Middle East*, Tsuneki, A., Yamada, Sh. and Hisada, K. (eds.), Springer, New York. 2016年9月
- ④ 『西アジア文明学の創出 2 : 古代西アジア文明が現代に伝えること』 *Facilitating the Study of West Asian Civilization: Ancient West Asian Civilization and the Modern World*. 筑波大学西アジア文明研究センター編 Research Center for West Asian Civilization (ed.), 2017年3月

各計画研究、公募研究の研究成果を総合し、古代西アジアが文明を準備するための奇跡ともいえる自然環境（地理、地形、地質、動植物）を有していたこと、それらの自然環境を多様でダイナミックな人間集団が様々な開発することで古代西アジア文明が築き上げられたことを描きました。本研究領域全体の成果は、特に上記した4冊の報告書に集約されています。

研究項目 A01 人類史の転換点

A01 計画研究 1・常木

・西アジアにおける現生人類の拡散ルートに関する新仮説の検証：計画研究 2・4・9・10・12、公募研究(南)と連携

南イラン・アルサンジャン地区（図1）およびイラク・クルディスタンのスレマニ地区で考古学調査を実施し、中期旧石器時代から新石器時代の文化層を発掘しました。中期旧石器時代の水場遺構の発見など、ザグロスでの現生人類の拡散とその後の進展についての新たな証拠、さらに新石器化についての議論に再考を促す多様な証拠を得ました（常木 2017, Tsuneki et al. 2016, 2015, 2012）。



図1 アルサンジャン地区のタンゲ・シカン洞窟遺跡

A01 計画研究 2・丹野

・古代の主食糧としてのコムギ栽培進化プロセスの解明：計画研究 1・3・5 と連携

遺跡出土植物種子の同定、チモフェービ系コムギのDNA分析、オオムギのDNA分析などにより農耕起源の解明を進めました。また皮性コムギ遺伝資源の栽培試験を行うとともに、国産デュラムコムギ品種の開発に成功し、古代の植物研究を現代における利用につなげたことも特筆されます（Tanno and Maeda 2016, Tanno et al. 2016, 2015, 2013、プレスリリース 2017年3月）。

A01 計画研究 3・三宅

・西アジア先史時代における工芸技術の研究：計画研究 2・5・12 と連携

新石器時代の石器や石灰製品、土器などの複製実験研究から、低温のパイロテクノロジーから高温のパイロテクノロジーへの技術的変遷を跡づけ、後に西アジア文明の技術的基盤となる冶金術やガラス製作技術への道程を追跡することに成功しました（Miyake 2016, Maeda in press）。

A01 計画研究 4・久田

・西アジア先史時代の石材供給に関する地質学的研究：計画研究 1・9・10 と連携

イランでの地質調査に基づき、旧石器時代の人類に与えたザグロス山脈の天然資源について様々な考察を行うことで、出アフリカを果たした人類の世界拡散のスタートとしてザグロス山脈が多様な地質環境的役割を果たしたことを解明しました。特に石器素材としての放散虫岩の利用状況を詳細に明らかにし（図2）、ザグロスにおける石材の豊富さが、アフリカからユーラシアへの人類拡散を可能にしたことをあきらかにしました（Hisada 2016, 2014, Hisada et al. 2016, 2015）。

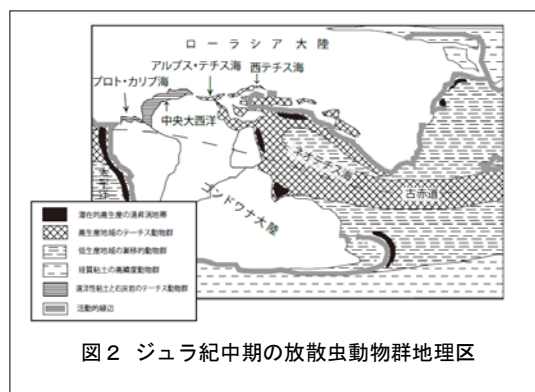


図2 ジュラ紀中期の放散虫動物群地理区

A01 計画研究 5・本郷

・西アジア都市文明の食糧資源基盤と環境に関する動物考古学的研究：計画研究 1・2・3 と連携

トルコ、ヨルダンの先史時代遺跡において動物考古学的調査を実施しました。ティグリス川上流域の先石器新石器時代 A 期には「地産地消型」の生業戦略がとられていたこと、同地域ではチャヨニュ遺跡のみが食糧生産社会へと発展し新石器化を達成したこと、食糧生産の拡大と集約化は、動物資源の減少など文明の負の側面である環境劣化をもたらしたことを解明しました。また、より広い視座から、家畜の中央アジア

ア・東アジアへの伝播についても研究を進めました (Hongo 2014, Hongo et al. 2013, Arbuckle et al. 2016)。

A01 公募研究・月本

・古代西アジアに興った一神教の起源と展開をめぐる実証的研究：計画研究 6・7・8 と連携

本研究では、①ヤハウエー神教の成立と展開、②古代イスラエルの物質文化の 2 つの課題解明をあげました。①に関しては、文献収集とともに研究代表者による国際学会での研究発表と論文発表を行い、②に関してはイスラエルにおいてテル・レヘシュ遺跡の発掘調査研究を進め、一神教が興る前後の古代ガリラヤの物質文化の諸相を明らかにしています。また、一神教を中心とする世界の成り立ちについて根本的に議論した著書を出版しました (小野塚 2017, Tsukimoto 2014, 月本 2014)。

研究項目 A02 史料から見た都市性の解明

A02 計画研究 6・山田

・前 2 千年紀におけるユーフラテス中流域とハブル流域の文字文化と社会に関する文献学的研究：計画研究 7・8、公募研究 (月本) と連携

古代西アジアの文字文化について、特に前 2~1 千年紀のメソポタミアとシリアを中心に研究し、主として楔形文字史料に基づいて、言語、書記教育、暦と祭儀、政治、行政、宗教の実相を解明しました (図 3)。特筆すべきは、書記教育、新アッシリアの異種資料、暦と祭礼を各テーマとした 3 回の国際シンポジウムを開催し、世界におけるアッシリア学研究を牽引したことです (Yamada 2016, Yamada et al. 2017, 2016, Yamada and Shibata 2016, Mattila, Shibata and Yamada 2017)。



図 3 解読された楔形文字粘土板文書 (前 18 世紀後半、テル・タバン出土)

A02 計画研究 7・池田

・周辺アッカド語文書に見る古代西アジアの言語・歴史・宗教に関する総合的研究：計画研究 6・8、公募研究 (月本) と連携

古代西アジアにおける周辺アッカド語文書に見る古代西アジアの言語・歴史・宗教に関して、①周辺アッカド語が Alloglottography (漢文のように、文字として書かれた言語と実際に読み上げる際の言語が異なる現象) ではなく、混成言語であることを解明しました。初期の西アジア文字文化の特性を他文明のそれと比較し、西アジアの古代言語と現代の言語の関連をあきらかにしたものです (Ikeda and Yamada 2016, Yamada 2016, 2015, 2014)。

A02 計画研究 8・柴田

・西アジアにおける政教問題の系譜に関する研究：計画研究 6・7、公募研究 (月本・亀谷) と連携

先史時代から現代までを射程に、西アジア史における政教問題を再考するために、「先史時代と古代：古代世界の国家・神殿・知識人」、「古代末期：一神教団の成立」、「中世：イスラーム誕生のインパクト」、「近世と近現代：西欧との対峙」をテーマとした 4 つの研究グループを組み、定期的に公開シンポジウムを開催するなどの成果をあげました。特に、従来は交流の薄い古代西アジア研究者とイスラーム研究者が協働で問題解決にあたったことは、西アジア史研究における学問的分断を克服する大きな成果となりました (Shibata 2017, 2016, 2015, 2014, 2013, 柴田 2015, 2014)。

A02 公募研究・亀谷

・中世イスラーム世界における「古代」の継承と創造に関する研究：計画研究 8 と連携

西アジアの古代と現代をつなぐ一つの方法として、中世イスラーム世界の人々によってイスラーム勃興以前の時代がどのように認識され、理解され、また作り直されていったのかを追究しました。その結果、中世イスラーム世界における「古代」は単一の「普遍史」的古代に収まらず、個々の解釈による「古代」を統合したものであること、古代文明に由来する事物は、中世イスラーム世界においてもそれが「古代」に由来するものと認識されていたこと、の 2 点が明らかとなりました。これらはまさに中世イスラームにおける古代西アジア文明の継承と創造に他ならなかったといえます (Kameya 2016, 亀谷 2016, 2015)。

研究項目 A03 古環境と人間社会

A03 計画研究 9・丸岡

・多元素同位体分析による古代西アジアにおける古環境復元：計画研究 1・10・12、公募研究 (南) と連携し、古環境を復元する手法として、遺跡から出土する骨や歯などの考古資料からさまざまな化学的情報を同時に引き出す方法の確立を目指し、連続フロー型安定同位体質量分析装置を用いて同一試料に対して多元素同位体比分析を行いました。

その結果にもとづき、古代西アジアにおける気候変動、特に気温の変化が人間活動にどのような影響を与えたのか、気候境変動の要因は何なのかを議論しました (Tang, Maruoka et al. 2016, Kagoshima, Maruoka et al. 2015, 丸岡 2014)。

A03 計画研究 10・安間

・堆積物に記録される西アジアにおける第四紀環境変動の解読：計画研究 1・4・9・11 と連携

西アジアや欧米の研究者とともに、トルコ、イラン、オマーン、イラク・クルディスタンで古環境調査を実施しました。アラビア半島周辺域の 15 万年前以降の古環境データをコンパイルしたことで、最終間氷期と現在の間氷期では、寒冷期から急速に温暖期にむかう時期に、明瞭な湿潤期を迎えることが明らかになりました。また、イランでのテフノクロロジーの調査を通して遺跡の消長と火山の爆発の関連を考察したほか、河川水の利用状況など、水資源を視点として西アジアの環境史の再考を行いました。さらに、楔形文書に用いられた粘土板の素材となった河川堆積物を調査するとともに、石器や土器流通のトレーサーとしてジルコノロジーを応用した研究(図 4)を進めました (Anma 2016, Anma and Maruoka 2016, Anma et al. 2016, 2015, 安間 2017, 2016, 2015)。

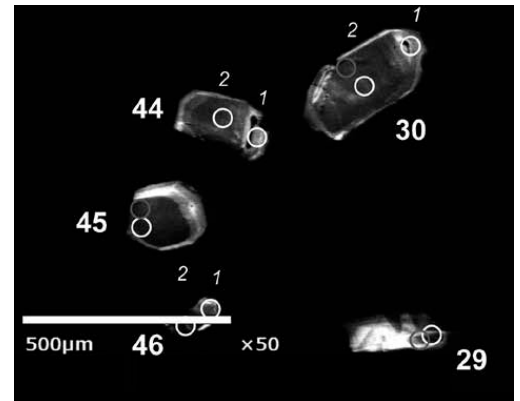


図 4 クルディスタン地方の花崗岩から分離したジルコンのカソードルミネッセンス像

A03 計画研究 11・八木

・西アジアの地震活動に関する研究：計画研究 4・9・10・12 と連携 (2015 年からは計画研究 10 に吸収)

地殻変動が活発で多くの大地震が発生し人間活動に大きな影響を及ぼしている西アジアの地震について研究を進めました。西アジアでは、多くのプレート境界のみではなく、境界周辺で大規模な地震が発生してきました。複雑な断層面形状を持つ地震の解析手法を開発、適用した結果、地表で観測された断層すべり分布と同様に、震源から南西方向に破壊が伝播するモデルを得ることができ、このような地質特性のために地震が頻発する西アジア地域と、そこで生まれた文明の関連を精査しました (八木 2014, Funning et al 2014)。

A03 計画研究 12・黒澤

・古代西アジアの石器・土器の化学組成・微細組織データベースの構築：計画研究 1・3・9・10 と連携

イランやシリアの新石器時代遺跡から出土した遺物について、SEM-EDS などを用いて分析を進めました。広いビーム面積を利用することで粘土の基質部分のバルク組成を分析することができ、その結果、新石器時代の土器は基本的に遺跡周辺で獲得できる粘土を素地として利用していること、土器焼成温度が 900°C 以上の場合に形成される透明柱状の焼成鉱物であるアルカリ長石の存在などを確認しています。西アジアの初期の土器がこのような高温で焼成され、また入念な素地の準備がなされていることが明らかになったことは、西アジア先史時代のパイロテクノロジーが非常に高度であったことを意味しており、西アジアの先進性を伝える新たな資料となっています (Kurosawa et al 2016, 2015, 2013, 2012, Kurosawa 2014, 黒澤 2014, 2012)。

A03 公募研究・南

・アミノ酸ラセミ化法を用いた骨遺物の年代測定：計画研究 1・4・9・10 と連携

計画研究 1 で得られたイラン所在の旧石器時代遺跡およびイラク・クルディスタンの新石器時代遺跡から採取した炭化物および動物骨資料について、炭化物の ¹⁴C 年代測定、資料調整を含めたトータルのバックグラウンド値を正確に見積もるための ¹⁴C 年代測定、ABO_x-SC 法による炭化物資料前処理と限外ろ過法の確立、動物骨資料のゼラチン抽出を実施し、多くの絶対年代値を得ることで研究の進展に深く寄与する年代データベースを構築しました (Minami and Tomiyama 2015, Minami 2013)。

研究項目 A04 文化遺産の保存

A04 計画研究 13・谷口

・西アジア文化遺産の材質と保存状態に関する自然科学的研究：計画研究 1・3、公募研究 (河原) と連携

マクロ、ミクロな視点から、西アジアの文化財の製作技法、材料、保存状態について明らかにすることを目的として、高輝度放射光施設 SPring8 を用いて土器新石器時代の青色ビーズの XAFS 分析を実施しました。また、彩色文化財に含まれる有機物質の分析として、膠着材料の同定を実施しました。さらにトルコ・カッパドキア地方のウズムル教会・聖ニキタス聖堂の保存に取り組みました (図 5)。公募研究と共同でおこなった

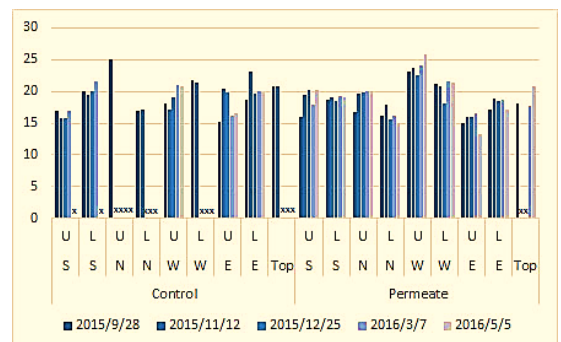


図 5 強化撥水剤パーミエイト HS-360 を用いた凝灰岩の風化速度の比較

研究では、ELISA をはじめとする抗体分析や GCMS による有機物質の同定の基盤作りに成功しました (Taniguchi 2016, 2015, 2012, 谷口 2016, 2015)。

A04 公募研究・河原

・文化財中に含まれる古代タンパク質の分析：計画研究 1・3・13 と連携

発掘資料および彩色材料として利用された壁画や絵画、衣類、植物残滓などのタンパク質の分析から、古代の動物利用や文化財の材質、製造法の解明を目指しました。バーミヤン壁画の彩色片から検出されたカラーゲンおよびペプチド断片は、いずれもウシ (*Bos Taurus*) に起原することが判明しました。また、標準資料ライブラリーの作成、さらに古代タンパク質の質量分析による年代測定も試み、現代に残る有機系文化遺産の保存技術を前進させました (河原 2015, Nakazawa et al. 2016)。

その他

1) 当該学問分野や関連分野への波及効果

本領域でフィールドワークを実施してきた西アジア地域は、現在政治的に不安定な状態が続いており、特にシリア、イラク、イランでは外国の調査隊がアカデミックな調査を実施すること自体が困難な状況が続いています。その中で、本新学術領域研究では、イラン、イラク・クルディスタン、トルコ南東アナトリアにおいて考古学調査、地質学調査、環境科学調査を続けてきました。南イラン (アルサンジャン地区) では中期旧石器時代のホモ・サピエンスが残したと想定される水場遺構などを発見し、テヘランでの国際学会での発表では、これをめぐり激論が戦わされました。また中期旧石器時代から後期旧石器時代への移行期の文化層の発見は、ザグロス地域の後期旧石器時代の始まりを考える重要な資料となっています。イラク・クルディスタンの新石器時代テル型遺跡 (カラート・サイド・アハマダン) の発掘では、同地域では半世紀近くも考古学的調査が行われてこなかったこともあり、イギリス隊の調査とともに、研究が遅れてきた北西ザグロス地域の新石器化を解明する重要な調査とみなされています。またイラク・クルディスタンでの都市遺跡 (ヤシンテペ) の調査は、アッシリア帝国北辺の拠点都市の発掘として注目を集めています。南東トルコの新石器時代遺跡調査 (ハッサンケイフ・ホユック) では、紀元前 9000 年にさかのぼる彩色人骨の埋葬などが発見されて、定住化・新石器化の鍵を握る遺跡と目されています。こうした西アジアのハートランドともいえるイラン・イラク・トルコ南東部での考古学的調査を地質学や古環境科学調査とともに継続していること自体も貴重ですが、調査成果の報告として、国際学会などで定住化、新石器化、都市化、帝国化などの議論をリードしている現状は、考古学会や地質学会にインパクトを与えているといえます。

研究項目 A02 が中心となって行った古代西アジアの前 2 千年紀の識字文化の諸相、特に書記教育のカリキュラム、暦と祭礼についての楔形文字学の国際共同研究は、その英文モノグラフの研究成果とともに、アッシリア学や楔形文字学の世界で国際的に極めて高い評価を受けていることが特筆されます。3 回の国際シンポジウムを日本において開催し、この分野で極めて著名な世界中の研究者が集合したことは、アッシリア学進展の拠点の 1 つが日本にあることを象徴していたといえます。

本新学術領域研究の最終目的である「西アジア文明学」の構築に関しては、成果の一つとして 2016 年 9 月に Springer 社から電子出版した書籍 *Ancient West Asian Civilization* が、出版から 8 か月の時点でダウンロード数 1600 回を超えています。「西アジア文明学」という用語が国際的に定着するにはまだまだ時間がかかるとは思われますが、そのためのプロパガンダを継続しています。国内では、東京の悠書館から 2014 年 12 月に出版した『西アジア文明学への招待』が、2 年半で 1500 部印刷されています。

現代文明と人類史にとって西アジアの歴史とそこで創造された文物・制度が極めて重要であるとする「西アジア文明学」の考え方は、シリアやイラク、トルコ、エジプトなどでの文化遺産の保全にとっても有効と考えております。本領域研究では、トルコのウズムル教会壁画の修復やシリアの文化遺産保護のための事業に取り組んでおり、現地の政府、文化庁相当機関、博物館から、その成果を高く評価されていることも付け加えておきます。

2) 実務・社会への波及効果

計画研究 2 が中心となり日本でも栽培可能な早生種のデュラムコムギを開発するという貴重な産業的貢献をしたことは、研究成果の現代社会への貢献として特筆されます。国内の小麦粉メーカー、パン製造業者などからも高い関心が寄せられており、2017年3月および5月のプレスリリースを通して、関連業界内での大きな話題となっています。これまで不可能だった国産のパスタ食材の提供が今後普及すれば、日本の農業および食品産業の育成に高く貢献できる可能性が示唆されます。